

鷲羽岳・硫黄岳・高瀬溪谷生物群集保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局 中信森林管理署
所在地	長野県大町市
面積	2,550.30 ha
設定年月日	平成6年4月1日（平成30年再編）
保護林の概要 （設定目的）	鷲羽岳の南、東斜面及び真砂岳の南斜面に位置し、亜高山帯に至る高山草原、低木群落等の原生的な植生となっている。また、硫黄岳と赤岳を結ぶ硫黄尾根の北斜面は、硫気噴出の影響等により全山にわたって生息している植生の数は少ないが、岸壁・岩隙植物群落がみられる。これらの特異な地理等からなる生物群集の保護を目的とする。



モニタリング調査の概要

実施年度	令和5年度
調査項目	森林詳細調査、森林概況調査、資料調査、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査（毎木調査・植生調査）を2プロット、森林概況調査として植物相調査・定点写真撮影を実施し、過年度の調査結果と比較した。
結果概要	湯俣川左岸はカラマツ、キタゴヨウ、コメツガ等から構成される亜高山帯針葉樹林の原生的な植生が確認された。また、硫黄岳の北斜面の上部にはダケカンバ群落、下部には亜高山帯針葉樹林が分布している。硫黄岳から赤岳を結ぶ硫黄尾根は硫気噴出の影響等により植生が少なく裸地化しており、岸壁・岩隙植物群落が分布している。竹村新道沿いの立木にニホンジカによる新しい剥皮が見られたが、保護林全体としては過年度調査と比較して大きな変化は確認されておらず、健全性は保たれている。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。